C—27 学童の肩部を中心とした形態について

ノートルダム女大文　○桝田庸　森藤永子

目的　肩部の形態は被服構成上、重要なポイントの一つである。しかし肩部は、肩の傾斜角度、鎖骨の傾斜、肩部の筋肉および後面の脂肪沈着状態に影響され、その形態は個性的である。前報においては、成人女子を対象として単写真撮影をおこない肩の形態を検討したが、今回は学童の肩部の形態のうち、特に被服構成上問題になる肩傾斜角度、前肩、後肩、等の特徴を単写真撮影により観察した。

方法　被験者は小学校一学年から六学年までの男子395名、女子439名である。体格の概要を把握するために身長、体重、胸囲の三項目を計測した。単写真撮影は立位正常姿勢で、肩部を中心とした前面、後面、側面の三枚である。写真計測は、肩傾斜角度、両腕側面幅、頸付根幅、および側面撮影における前肩、後肩等をおこなつた。

結果　実測項目と写真計測項目との相関は低い。肩傾斜角度について、男子において、各々の学年間にχ^2検定をおこなつた結果、有意差は認められなかつた。しかし、成人男子との間には、有意差が認められた。前肩、後肩については、学年間にも、成人男子との間にも有意差は認められなかつた。女子についても、ほぼ同様の結果が得られた。男女共、特に肩傾斜、前肩、後肩についてはシルエットのみでも強い個性を持つことがうかがわれた。